

市立函館高等学校視察報告書

訪問者 教諭 尾形 広道
教諭 及川 賢司

1 訪問先、訪問日及び対応者について

- 1) 訪問先 市立函館高等学校（北海道函館市柳町11番5号）
- 2) 訪問日 平成28年7月1日（金） 9:50～12:10
- 3) 対応者 進路指導部長 星野 朋己, 教務部長 島 宏明

2 学校概要

北海道函館東高等学校と北海道函館北高等学校が統合し、平成19年に開校した進学重視型単位制高校である。函館市内の公立高校での進学実績は、函館中部高校に次ぐ2番手の学校である。現在は1学年8クラスであるが、平成30年度からは1学年6クラスになる予定である。木曜日は50分の7時間授業（7時間目はLHR）、その他の曜日は6時間の55分授業を行い、授業時間の確保に努めている。単位制の学校であるので、生徒の様々なニーズに応えられるように多くの講座を設けている。本校にない校務分掌は、特活部とガイダンス総学部である。特活部は生徒会活動、部活動、ホームルーム、学校行事を総括し、ガイダンス総学部は総合的な学習の時間、各種講演会、単位制の教科選択、函館学を総括している。それぞれ独立した分掌にすることにより、充実を図っている。

3 進路実績（平成28年3月卒業生の国公立大学合格者数）

旭川医科大学（医）1名、北海道教育大学（函館校32名、札幌校4名、旭川校3名、釧路校2名）、小樽商科大学4名、室蘭工業大学3名、北見工業大学3名、弘前大学13名、岩手大学8名、山形大学8名、茨城大学2名、埼玉大学1名、信州大学1名、新潟大学1名、香川大学1名、琉球大学1名、公立ほこだて未来大学7名、札幌医科大学6名、札幌市立大学1名、釧路公立大学3名、名寄市立大学1名、青森県立保健大学8名、青森公立大学3名、岩手県立大学3名、秋田公立美術大学3名、山形県立保健医療大学1名、茨城県立医療大学1名、横浜市立大学1名、石川県立看護大学1名、公立鳥取環境大学1名、国立水産大学校1名
(国公立大学129名合格)

4 視察内容

1) 教務関係

・日課表について

朝読書・SHR	8:20～ 8:40	※木曜日	
1校時	8:45～ 9:40	1校時	8:45～ 9:35
2校時	9:50～10:45	2校時	8:45～10:35
3校時	10:55～11:50	3校時	10:45～11:35
4校時	12:00～12:55	4校時	11:45～12:35
昼休み	12:55～13:30	昼休み	12:35～13:10
5校時	13:35～14:30	5校時	13:15～14:05
6校時	14:40～15:35	6校時	14:15～15:05
SHR	15:35～15:40	7校時	15:15～16:05
		SHR	16:05～16:10

- ・55分授業のメリットは、授業時間と学校行事の時間を確保できることである。
- ・学校祭（文化祭）は3日間行っている。学校祭の1週間前から、授業を全てカットして文化祭の準備を行っている。
- ・1年生の5月の連休明けから単位制についての指導を行い、2年次から授業を選択できる。
- ・現在3年生は5クラスが理系クラス、3クラスが文系クラスである。
- ・3年生の授業はセンター試験前まで行い、2月の授業は行わず、課外講習が始まる。

2) 進路関係

- ・3年生対象に、毎週月、火、木、金の放課後に1時間、土曜日に2時間課外講習を行っている。1、2年生は部活があるので、夏季、冬季、春季の講習を除き、課外講習は全く行われていない。
- ・11月上旬に各大学の担当者が来校し、大学説明会を実施する。今年初めての試みである。
- ・進路指導の目標は国公立大学に進学することである。生徒の8割から9割の生徒が国公立大学への進学を希望している。例年100名程度の生徒が実際に国公立大学へと進学している。今年の浪人した生徒は17人で、少なかった。函館に大手予備校はないので、浪人した生徒の多くは札幌にある大手予備校の寮に入って受験準備をする場合が多い。今年の大学進学者(128名)の約62%が国公立大学に進学している。北海道外への進学率は高い。
- ・センター試験の分析と講評を教科ごとに実施し、その結果を進路指導資料(進路シラバス)の冊子に入れて生徒へ配布している。

3) ガイダンス総学部について

- ・ガイダンス総学部という独立した分掌が存在し、総合学習の他、出前講義や講演会といった行事の充実を図っている。
- ・学校設定科目で、「函館学」を1単位必修科目として設置しており、ガイダンス総学部が総括している。その内容は地域巡視、観劇、函館検定などである。
- ・ガイダンス総学部が中心となり、総合学習の3年間全ての授業について指導案をつくり、それを製本して職員に配布している。
- ・1年次は調べ学習を11時間行い、クラスごとの発表と全体での発表で4時間とっている。2年次から3年次にかけては課題研究を行い、原稿用紙10枚以上の論文を提出させる。優秀な論文は優秀作品集として製本される。
- ・センター試験後の毎年水曜日に、市民会館を貸し切り、予餞会を実施している。内容は下級生によるショートコントやダンスの他、3学年の教員による劇を行い、センター試験を終えた3年生を慰労する。11:00から16:00頃まで行われている。

5 学校づくりに役立つ具体案

1) 入試問題分析について

センター試験や個別試験の分析は各予備校でも行っているが、我々も独自に分析をして教科ごとに話し合い、問題の傾向を把握しておくことは大切だと思う。我々のスキルアップと同時に、その分析結果を生かして生徒に学習指導を行うこともできると思う。

2) ガイダンス総学部について

充実させたいものを専門に総括する分掌を設置することは良いことだと思う。特に総合的な学習の時間は3年間の指導案が製本されて教員に配布されており、指導が確立されているのが印象に残った。また、3年間の集大成として3年次に課題研究論文に取り組みせ、優秀作品を集めて製本し、完成度の高い作品集をつくっている。本校で分掌を増やすことは現実的ではないが、少なくとも全職員が3年間の見通しをしっかりとって指導することが重要だと思う。その他、蛍雪講座などの講演会も精選し、より良いものにしていくと良いと思う。

3) 授業時間について

55分の6時間授業は参考になった。現在本校では45分の7時間で行われているが、このままで良いか検討しても良いと思う。

函館中部高等学校視察報告書

訪問者 教諭 及川 賢司
教諭 尾形 広道

1 訪問先、訪問日及び対応者について

- 1) 訪問先 函館中部高等学校（北海道函館市時任町 11 番 3 号）
- 2) 訪問日 平成 28 年 6 月 30 日（木） 13:30～16:30
- 3) 対応者 進路指導部長 今田祐嗣，英語科主任 白鳥宏之

2 学校概要

平成 27 年に創立 120 周年式典を行った伝統校で現在は全日制課程と定時制課程がある。（以下全日制課程について）函館市内の公立学校では 1 番の進学校で、現在は 1 学年 6 クラス。50 分授業の 7 時間授業。平成 15 年に文科省 SELHi 研究指定校（第 1 期）に指定され、その後も英語教育に力を入れている。平成 27 年 8 月には文科省課題解決に向けた主体的・協動的な学び（アクティブラーニング）推進事業協力指定校となる。

3 進学実績（平成 28 年 3 月卒業生・現役合格）

北海道大学 12 名，北海道教育大（函館 8 名，札幌 4 名，岩見沢 1 名），小樽商大 4 名，北見工大 1 名，室蘭工大 2 名，弘前大 18 名，岩手大 5 名，東北大 2 名，秋田大 2 名，山形大 1 名，福島大 2 名，茨城大 2 名，筑波大 1 名，埼玉大 2 名，東京外大 2 名，東京学芸大 1 名，東京海洋大 1 名，東京農工大 1 名，信州大 6 名，静岡大 1 名，奈良女子大 1 名，広島大 1 名（以上国立大 81 名）

はこだて未来大 7 名，札幌医大 7 名，青森県立保健大 6 名，国際教養大 1 名，他 11 名
（以上公立大 31 名）

北海道医療大 20 名，札幌保健医療大 4 名，北海道学園大 13 名，北星学園大 5 名，他（道内私立大学 44 名），慶応大 2 名，上智大 1 名，青山学院大 2 名，中央大 8 名，東京理科大 5 名，法政大 5 名，明治大 4 名，同志社大 1 名，立命館大 4 名，関西学院大 1 名，他（本州私立大 56 名）

（以上私立大 175 名）

4 視察内容

1) 教務・進路関係

- ・ 50 分×7 時間授業。
- ・ 土曜課外を前期 5 回後期 5 回 70 分×3 コマ（英数国）を行っている。
- ・ 夏期講習，冬期講習は 1，2 年生 5 日間 3 年生 10 日間
- ・ 北海道教育委員会は，北海道の地域医療を支える人材を確保するために，医学部への進学を目指す生徒に対して支援を行うプロジェクトを行っており，この高校は医進類型指定校として選ばれている。
- ・ 3 年次から文系と理系とに分かれる。
- ・ 文系 3 クラス理系 3 クラスで，理系の 1 クラスを医進類型クラスと位置づけて医学部進学希望者を集めて理科 3 科目，数学・英語で少人数授業を行っている。
- ・ 大学個別相談会を毎年 10 月に体育館で行っている。各大学の入試担当者が来校しブースを 40 個作り，各学年の時間を設けて全生徒が個別相談会に参加。資料だけの参加大学は 80 大学。
- ・ 国際大学連合を通じて海外の 4 つの大学と提携を結んでいる。

・医学部医学科の指導計画

	1年生	2年生	3年生
4月			
5月	医進ガイダンス	進学ガイダンス	進学ガイダンス
6月	第1回メディカル講座 医進ワークショップ (3年生)		
7月		医療体験活動 事前学習	医進ワークショップ 小論文・面接指導 個人面談
8月		メディカルキャンプ (お盆前) 医療体験活動 (夏休み明け)	
9月	医療体験活動 事前学習		
10月	医療体験活動		
11月	グループ勉強会		
12月	第2回メディカル講座 グループ勉強会		
1月	グループ勉強会		小論文・面接指導
2月	グループ勉強会		
3月	高校生医療体験報告会 (札幌)		

メディカル講座と医療体験活動は、近隣の高校にも呼びかけて参加生徒を募る。

医療体験活動は旭川医科大学が協力してくれる。

3月の高校生医療体験報告会 (札幌) は札幌医科大学に進学した卒業生と話をさせる。

2) 英語科の取り組み

実際に英語でコミュニケーションができる技能を身につけることを目標に授業を行っている。卒業時のゴールは、英語圏への留学にも、ほぼ対応できる英語力を身につけることとしている。

挨拶から授業の指示、内容を考えることなど、教師も生徒も基本的には授業は全て英語で行う。GTECという英語力の試験を各学年2回受験。毎回のGTECでスコアやグレードを上げることを客観的な目標としている。

授業時数は1年次6単位、2年次6単位、3年次は6単位と学校設定科目選択者は更に2単位。比較的易しい教科書を選択し、素早く沢山読む (だいたい分かれば良い)。和訳はしない (渡さない)。英文約7割の理解で良しとする。文法は遭遇時にその都度学ぶ。

5 学校づくりに役立つ具体案

1) 志の高い生徒に対する指導

医進類型クラスを作ったの進学指導は、有効であるように感じた。また、進路指導部長の話を伺うと、土曜課外も上位の生徒たちは登校させた上で、土曜課外には参加させずに文系理系関係なく図書館で自主学習や学習会をさせているとのことであった。

2) 卒業生を使った進学指導

札幌に生徒を引率した際は、卒業生に来てもらい在校生と話をさせる取り組みを行っている。学校案内のパンフレットでも大学に進学した先輩が学校紹介をしている点が興味深い。

3) 模試分析会

各学年の教科担当者が模試の分析を行い、どの分野ができて、どの分野ができていないか、また今後の方策について学年毎に報告会を行っている。(約90分)